

生涯教育研修活動報告書

一般 検査研究班

- 1 実施日時：2021年6月24日 19時00分～20時00分
- 2 会場：WEB開催 点数：専門教科—20点
- 3 主題：腎臓が好きになる② ～腎機能検査について～
- 4 講師：渡辺 浩 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス (株))
DX事業部 LD 営業本部 UA スペシャリストグループ)
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 164 名 賛助会員 0 名
- 7 出席した研究班班員：藤村 和夫 室谷 明子 小関 紀之 柿沼 智史 佐々木 菜緒
渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己

8 研修内容の概要・感想など

腎臓が好きになる第二弾という事で渡辺氏より、腎機能検査について講演して頂いた。

はじめに、従来より測定されてきた β 2-MG・ α 1-MG・尿中NAGなどの尿中バイオマーカーと、近年測定されるようになったIL-18・KIM-1・L-FABP・NGALなどの尿中バイオマーカーを、各臨床的意義に加え、診療報酬点数を含めて詳しく説明をされていた。中でもL-FABP・NGALはAKI診療ガイドライン2016にも記載されるほど注目の尿中バイオマーカーであり、早期AKIの発見にはとても有効なマーカーであると理解できた。

次に、尿中アルブミン検査の意義について説明が行われた。腎臓の血管（小葉間動脈・傍髄質糸球体輸入細動脈）から微量アルブミン尿が漏れ出るときは、血管系構造（直線構造）の関連性から心臓や目、脳血管にも障害が出現しているという「strain vessel 仮説」を、イラストを踏まえて詳しく解説され、腎臓が悪い患者に心血管イベントが多い理由を初めて理解することができた。

最後に、クレアチニン補正について説明がされた。CKD重症度分類や糖尿病性腎症病期分類にはクレアチニンで補正された尿中蛋白濃度やアルブミン濃度が記載されており、これは濃縮尿や希釈尿に対する検査値の影響を一定にする意義がある。クレアチニン補正の重要性を改めて確認することが出来た。

今回の研修会を通して、尿中バイオマーカーを軸に様々なデータを活用することで患者背景を色濃くし、ルーチンに活かすことの重要性を改めて見直す講演となった。

提出日 2021 年 7 月 19 日

文責： 中川 禎己